

さようなら28回生

卒業式

高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南町一丁目30番34号
大阪府立阿倍野高校
新規部
編集責任者 橋村宏一

諸君の活躍を願う

贈る言葉 学級主任

学年主任

福田 陽造先生

この三年間、社会では、

深刻な経済不況で発想の転

換を強いられているが、学

内では、授業、諸行事を通

じ、人格形成、仲間作りに

あけくれた平和な毎日であ

った。別れに際し、日常、

特に感じていることを、二

つ指摘して、はなむけの言

葉としたい。

「自分を大切に。」勿論

利己的なことではない。精

神面、肉体面で自分を大切

にしてほしい。日常的な肉

体的鍛錬をおこたらず、精

葉と見えておこう。

Tis better to have

Loved and Lost than

Never to have loved."

②国際的規模とスケールで

進歩発展をする時代です。

責任転嫁の、いい加減な人

間でなく、胸をはって、真

剣に生きてほしい。

諸君のご多幸とご健闘を

心から祈る。

リルケの詩で終る諸君の答

みに致したいと思います。

とともに、それがやがて

御卒業おめでとうござい

ます。リルケの詩に始まり

祈り、その成長の程を愉し

ます。これから先、日々、

傾注していくほしと願

つております。——僕に言

ること。以上ですが、最後に

人生(生甲斐はある

感するものである)を送る

ことです。これから先、日々、

何事にもその時々の全力を

つけた人間になること、そ

の為の英語学習を今後もす

ること。

(3)生き甲斐のある

人生(生甲斐とは自分の存

在を他人が必要とする時に

傾注していくほしと願

つております。——僕に言

うことです。これから先、日々、

何事にもその時々の全力を

つけた人間になること、そ

の為の英語学習を今後もす

ること。

(3)生き甲斐のある

人生(生甲斐とは自分の存

在を他人が必要とする時に

傾注していくほしと願

つております。——僕に言

うことです。これから先、日々、

何事にもその時々の全力を

つけた人間になること、そ

の為の英語学習を今後もす

ること。

(3)生き甲斐のある

人生(生甲斐とは自分の存

在を他人が必要とする時に

傾注していくほしと願

つております。——僕に言

うことです。これから先、日々、

何事にもその時々の全力を

つけた人間になること、そ

の為の英語学習を今後もす

ること。

(3)生き甲斐のある

人生(生甲斐とは自分の存

在を他人が必要とする時に

傾注していくほしと願

つております。——僕に言

うことです。これから先、日々、

何事にもその時々の全力を

つけた人間になること、そ

の為の英語学習を今後もす

ること。

(3)生き甲斐のある

人生(生甲斐とは自分の存

在を他人が必要とする時に

傾注していくほしと願

つております。——僕に言

うことです。これから先、日々、

何事にもその時々の全力を

つけた人間になること、そ

の為の英語学習を今後もす

ること。

(3)生き甲斐のある

人生(生甲斐とは自分の存

在を他人が必要とする時に

傾注していくほしと願

つております。——僕に言

うことです。これから先、日々、

何事にもその時々の全力を

つけた人間になること、そ

の為の英語学習を今後もす

ること。

(3)生き甲斐のある

人生(生甲斐とは自分の存

在を他人が必要とする時に

傾注していくほしと願

つております。——僕に言

うことです。これから先、日々、

何事にもその時々の全力を

つけた人間になること、そ

の為の英語学習を今後もす

ること。

(3)生き甲斐のある

人生(生甲斐とは自分の存

在を他人が必要とする時に

傾注していくほしと願

つております。——僕に言

うことです。これから先、日々、

何事にもその時々の全力を

つけた人間になること、そ

の為の英語学習を今後もす

ること。

(3)生き甲斐のある

人生(生甲斐とは自分の存

在を他人が必要とする時に

傾注していくほしと願

つております。——僕に言

うことです。これから先、日々、

何事にもその時々の全力を

つけた人間になること、そ

の為の英語学習を今後もす

ること。

(3)生き甲斐のある

人生(生甲斐とは自分の存

在を他人が必要とする時に

傾注していくほしと願

つております。——僕に言

うことです。これから先、日々、

何事にもその時々の全力を

つけた人間になること、そ

の為の英語学習を今後もす

ること。

(3)生き甲斐のある

人生(生甲斐とは自分の存

在を他人が必要とする時に

傾注していくほしと願

つております。——僕に言

うことです。これから先、日々、

何事にもその時々の全力を

つけた人間になること、そ

の為の英語学習を今後もす

ること。

(3)生き甲斐のある

人生(生甲斐とは自分の存

在を他人が必要とする時に

傾注していくほしと願

つております。——僕に言

うことです。これから先、日々、

何事にもその時々の全力を

つけた人間になること、そ

の為の英語学習を今後もす

ること。

(3)生き甲斐のある

人生(生甲斐とは自分の存

在を他人が必要とする時に

傾注していくほしと願

つております。——僕に言

うことです。これから先、日々、

何事にもその時々の全力を

つけた人間になること、そ

の為の英語学習を今後もす

ること。

(3)生き甲斐のある

人生(生甲斐とは自分の存

在を他人が必要とする時に

傾注していくほしと願

つております。——僕に言

うことです。これから先、日々、

何事にもその時々の全力を

つけた人間になること、そ

の為の英語学習を今後もす

ること。

(3)生き甲斐のある

人生(生甲斐とは自分の存

在を他人が必要とする時に

傾注していくほしと願

つております。——僕に言

うことです。これから先、日々、

何事にもその時々の全力を

つけた人間になること、そ

の為の英語学習を今後もす

ること。

ざつくば欄

卒業式にあたつて

各学年からの投稿

—3年—人生間意氣

けつしてほめられた生徒ではなかつたろう。おそれくは現代の高校教育の中にあつては最悪というべき学生であつたかも知れない。

友にしてこれほど「たち」の悪い奴もいないだろう。

まさに最悪。そしてそれはぼくをある程度、あるいはそれ以上理解する人等の強く合意されるところだと思われる。

毎日は楽しかった。なによりも、すばらしい仲間が在つたから。

阿倍野高校を卒業する今どこか、なんとなくなつかしく、さびしい思いがしてならないのは、文化祭をはじめとするその他行事、春夏秋冬、その中にみんなとの思い出があつたから、いつまでも消えない思い出

地下鉄我孫子駅下車。我々はその近代的な建物に目を見はつた。総じは、「緑が多い」といふのが、なんとも思ひ出があつたから、

高校を訪れた。また、大きな窓が走っている。また、正門から入ると、そこには来客用の出入口に続く坂といふ。そのため、イイ気分で昼寝ができるのである。ところがその丘には我々には魅力的だった。

暖かい日には、その反面、あらゆる事に対して、『自由』すぎるので、先生側も、生徒たるが、明るい生徒が多い」との事であった。

そのため、近頃で多いそこの制服制度にもどしたいた。

最後に、阿倍野についていることが知られる。

たのまれたときも、書きか

ける前も、こうしたこと

書こうとは思つていなかつたようと思う。しかし

振り返ればよみがえるし

かし戻つてはこない。

だから、だから思い出。

思うに、生涯最もすばら

い三年間という月日が過

ぎ去つてしまつたのかもし

れない。

こんな思考をしながら時

をあとにしようとするから

いつも思われるだろう。

なぜだろうか。日ごろこ

んなふうに特別思つているわけでもない。この原稿を

書いては、さらに

しまうわけではないのに:

時が過ぎて思い出が残る

りながら。

(麻呂之介)

過ぎゆく時の中。

ぼくは過ぎた者を振り返

つてもみたい。歩んで行

く。ゆっくりと、ほんとに

楽しかった思い出を振り返

りながら。

そして、この身は、さら

に過去のものになつて

いる。春が訪ねて、受

演づけられた歌はない。

こんなことを言つていると、右翼かと疑われそうにならぬが、これはそういうことと、全く関係ないはずなのだ。こういう卒業式と

「君が代」は我々日本国民の国歌ではないのか。「仰げば尊し」にしても、あれほど卒業式に対する態度はよくない。この原稿を

書く前も、こうしたことを

書こうとは思つていなかつたようと思う。しかし

振り返ればよみがえるし

かし戻つてはこない。

だから、だから思い出。

思うに、生涯最もすばら

い三年間という月日が過

ぎ去つてしまつたのかもし

れない。

こんな思考をしながら時

をあとにしようとするから

いつも思われるだろう。

なぜだろうか。日ごろこ

んなふうに特別思つているわけでもない。この原稿を

書いては、さらに

しまうわけではないのに:

時が過ぎて思い出が残る

りながら。

(麻呂之介)

過ぎゆく時の中。

ぼくは過ぎた者を振り返

つてもみたい。歩んで行

く。ゆっくりと、ほんとに

楽しかった思い出を振り返

りながら。

そして、この身は、さら

に過去のものになつて

いる。春が訪ねて、受

演づけられた歌はない。

こんなことを言つていると、右翼かと疑われそうにならぬが、これはそういうことと、全く関係ないはずなのだ。こういう卒業式と

「君が代」は我々日本国民の国歌ではないのか。「仰げば尊し」にしても、あれほど卒業式に対する態度はよくない。この原稿を

書いては、さらに

しまうわけではないのに:

時が過ぎて思い出が残る

りながら。

(麻呂之介)

過ぎゆく時の中。

ぼくは過ぎた者を振り返

つてもみたい。歩んで行

く。ゆっくりと、ほんとに

楽しかった思い出を振り返

りながら。

そして、この身は、さら

に過去のものになつて

いる。春が訪ねて、受

演づけられた歌はない。

こんなことを言つていると、右翼かと疑われそうにならぬが、これはそういうことと、全く関係ないはずなのだ。こういう卒業式と

「君が代」は我々日本国民の国歌ではないのか。「仰げば尊し」にしても、あれほど卒業式に対する態度はよくない。この原稿を

書いては、さらに

しまうわけではないのに:

時が過ぎて思い出が残る

りながら。

(麻呂之介)

過ぎゆく時の中。

ぼくは過ぎた者を振り返

つてもみたい。歩んで行

く。ゆっくりと、ほんとに

楽しかった思い出を振り返

りながら。

そして、この身は、さら

に過去のものになつて

いる。春が訪ねて、受

演づけられた歌はない。

こんなことを言つていると、右翼かと疑われそうにならぬが、これはそういうことと、全く関係ないはずなのだ。こういう卒業式と

「君が代」は我々日本国民の国歌ではないのか。「仰げば尊し」にしても、あれほど卒業式に対する態度はよくない。この原稿を

書いては、さらに

しまうわけではないのに:

時が過ぎて思い出が残る

りながら。

(麻呂之介)

過ぎゆく時の中。

ぼくは過ぎた者を振り返

つてもみたい。歩んで行

く。ゆっくりと、ほんとに

楽しかった思い出を振り返

りながら。

そして、この身は、さら

に過去のものになつて

いる。春が訪ねて、受

演づけられた歌はない。

こんなことを言つていると、右翼かと疑われそうにならぬが、これはそういうことと、全く関係ないはずなのだ。こういう卒業式と

「君が代」は我々日本国民の国歌ではないのか。「仰げば尊し」にしても、あれほど卒業式に対する態度はよくない。この原稿を

書いては、さらに

しまうわけではないのに:

時が過ぎて思い出が残る

りながら。

(麻呂之介)

過ぎゆく時の中。

ぼくは過ぎた者を振り返

つてもみたい。歩んで行

く。ゆっくりと、ほんとに

楽しかった思い出を振り返

りながら。

そして、この身は、さら

に過去のものになつて

いる。春が訪ねて、受

演づけられた歌はない。

こんなことを言つていると、右翼かと疑われそうにならぬが、これはそういうことと、全く関係ないはずなのだ。こういう卒業式と

「君が代」は我々日本国民の国歌ではないのか。「仰げば尊し」にしても、あれほど卒業式に対する態度はよくない。この原稿を

書いては、さらに

しまうわけではないのに:

時が過ぎて思い出が残る

りながら。

(麻呂之介)

過ぎゆく時の中。

ぼくは過ぎた者を振り返

つてもみたい。歩んで行

く。ゆっくりと、ほんとに

楽しかった思い出を振り返

りながら。

そして、この身は、さら

に過去のものになつて

いる。春が訪ねて、受

演づけられた歌はない。

こんなことを言つていると、右翼かと疑われそうにならぬが、これはそういうことと、全く関係ないはずなのだ。こういう卒業式と

「君が代」は我々日本国民の国歌ではないのか。「仰げば尊し」にしても、あれほど卒業式に対する態度はよくない。この原稿を

書いては、さらに

しまうわけではないのに:

時が過ぎて思い出が残る

りながら。

(麻呂之介)

過ぎゆく時の中。

ぼくは過ぎた者を振り返

つてもみたい。歩んで行

く。ゆっくりと、ほんとに

楽しかった思い出を振り返